

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101844		
法人名	社会福祉法人ひかりの里		
事業所名	めだかの学校シニア		
所在地	甲府市武田1丁目3-23		
自己評価作成日	令和2年12月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全国的にもまれな児童養護施設との併設施設のため、子どもとの交流を行い相互への刺激となっている。
 甲府駅に近いということもあり、外に出かける行事を盛んに行っている。
 利用者の希望を聞いた少人数での個別外出や家庭的な雰囲気を大切にして利用者が「その人」らしく過ごせるよう配慮している。
 職員研修も行い認知症の理解をしたプロ意識を持ち利用者に接している。
 常に利用者の方向を見た介護ができるよう職員間のコミュニケーションを大切にしていく。
 「家庭的」な雰囲気を大切にしてアットホームな施設作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

甲府駅に歩いて行ける近さで、武田通りに面した鉄筋3階建ての3階部分が事業所になっている。事業主体の法人は福祉・医療・児童養護施設の運営を行っている。事業所の2階部分が児童養護施設で利用者と交流する中で家庭的な雰囲気をつくり出している。コロナ禍で地域の行事への参加や個別外出等利用者の外出の機会も限られている。その中でも協力医への定期受診時の行き帰りに、車窓から風景を見て季節を感じ気分転換になっている。また、週2回、夕食を自由メニューとして、利用者の好みの献立で食に対する楽しみをもたらしている。コロナウイルスの感染対策にも気を配り、利用者一人ひとりが安心して暮らせるように、日々の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を大切に実践して取り組んでいる。職員会議、朝礼、昼礼等で周知徹底をしている。	「安心して笑顔で、一日一日を大切に過ごす」を事業所の基本理念としている。事業所内に掲示してもあり、日頃から職員に意識づけされている。職員会議や朝礼等で確認し、利用者一人ひとりが安心して生活できるよう、管理者と職員は理念を共有し支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域行事にも積極的に参加している。近隣住民との挨拶や会話を大切に雪が降った時などは積極的に地域の雪かきなどを行い交流を深めている。地域の方とのコミュニケーションを立て接している。	地域住民の一員として自治会に加入している。夏祭り、体育祭、文化祭には利用者が職員と一緒に制作した巻紙の貼り絵や日頃練習した合唱を披露して、地域住民との交流をしている。今年はコロナ禍で、地域行事が中止になり参加できなかった。また、管理者が自治会との関りもち、地域との関係が作られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設に見学に来てくれた際や、運営推進会議の時や地域行事の時に相談に乗れるようにしている。実際に地域の方から相談に来る方もいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議内で意見・要望を聞きそこの内容を職員会議などで話し、周知徹底してサービスの向上になるように努めている。会議では意見が出やすい雰囲気を大切にしている。	2か月に1回運営推進会議を開催している。利用者家族、地区社会福祉協議会会長、民生委員、地域包括支援センター職員がメンバーとなっている。事業所からは活動内容の報告等を行い、検討事項等について参加メンバーから意見をもらうようにしている。出された意見等は、議事録として作成している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から電話等で相談できる関係づくりを入れている。逆に聞かれる事もあり、相互に信頼関係を作れるようにしている。クレームの家族がいた時は甲府市にも状況を伝え一緒に考え取り組んだ事例がある。	市の担当者には、運営推進会議の議事録を届けて、事業所の実情を伝えている。また、問題解決に向けた話し合いや対応に、共に取り組んでいけるよう、協力関係を築いている。市より月1回、介護相談員の受け入れも行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに従い理解すると同時に安易に身体拘束をしないように徹底している。また会議や内部研修でも言い続け職員に周知してもらっている。2ヶ月に1回、代表者で身体拘束廃止委員会を行っている。	身体拘束廃止委員会があり2か月に1回開催している。事例を挙げて話し合いを行ない、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入り口の鍵も夜間以外は施錠しないで開放し、外出しそうな様子があれば一緒について行き見守るようにしている。また、言葉により行動を制限してしまうような言葉にも気を付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修等でも虐待についての勉強会を行い、職員間でも言い合える職場づくりをしている。職員の色ではなく利用者の顔色を見たケアを心掛け実践している。虐待防止マニュアルを作り対応している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加して学ぶようになっているが、まだまだ難しい面があるので引き続き学んでいきたい。以前制度を利用していた方がいたが、今はないので今度利用する方がいてもいいように学んでいきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族とも話しやすい関係になるよう努めている。電話連絡などとして入所後も安心して頂けるような配慮を心掛けている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や口語でクレーム等頂いた時は迅速な対応を心がけている。 何でも話せる雰囲気作りをして話ができるようにしている。そのために行事等にも参加してもらっている。	意見箱や家族等の面会時に意見、要望を聞くように心がけている。コロナ禍で、面会制限もあり、家族等から聞く機会が限られている。出された意見、要望等は職員会議等で検討し、ケアに反映するように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で困ったことなどを聞き働きやすい環境づくりをしている。 職員にも丁寧に関わるようにしている。	職員会議で職員からの意見を聞くようにしている。日頃からもコミュニケーションを図るように心がけ、何でも話せるような関係を作っている。職員が利用者に関わる中で必要な物品の要望があった時は購入し、働きやすい環境をつくっている。個人面談は設けていないが、必要な時には個人的に話を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が気持ちよく働けるような配慮を行っている。能力ややる気に応じた昇給を行っている。 資格手当を作り職員のスキルアップにつなげている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回ある内部研修などを積極的に推進して行い、各職員の質の向上を目指している。また内部だけではなく外部の研修会にも積極的に参加する機会を提供している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつもの施設があるので内部での交流研修は積極的に行っている。数年前には他施設研修会も行った研修などで他施設の方と交流ある時には積極的にコミュニケーションを図り情報交換している。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15	利用	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の家族からの聞き取りや入所後も要望等を聞き考慮したケアを心がけている。そのために日頃の面会時や行事の時に積極的にコミュニケーションを図り関係づくりに努めている。 利用者本人にも気づきを大切にしてい何が必要で何を求めているかを考えるケアをしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所後も要望等を聞き考慮したケアをしている。何かあれば電話等で情報交換をして、何でも話ができる関係づくりに努めている。 出来る事や出来ない事も極力伝えて家族と共に支援している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応を常に心がけ、利用者にとって何が一番最適か？を常に考えてケアしている。思い込みによる決めつけた対応にならないように色々な角度から物事を見る癖をつけて判断するようになっている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気づくりに心がけ、自分の親や大切な方が入所しても安心して預けられるような環境・関係づくりに努めている。 職員もアットホームな雰囲気で一日一日を過ごせるように仕事をしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普通の面会以外に行事の時に家族にも来てもらい一緒に過ごすようにしてもらっている。家族と共に一緒に利用者をケアしていければ良いと考えている。 行事に参加してもらい関係性作りを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出の時や散歩の時などに馴染みの場所に行ったり、面会等で知り合いの方が来た時は長居しやすい空間作りを心掛け本人のためにも気軽にまた来てもらえるように配慮している。地元的美容院や知人のところ遊びに行ったり、長年勤めていた職場にも行くようにしている。	入居時に利用者、家族等から聞いて、馴染みの人や場所の把握をしている。以前は、友人の面会や職場の人が訪ねてきたり、馴染みの場所にも行っていたが、コロナ禍で面会制限や外出の自粛もあり、困難な状況になっている。届いた年賀状に返事を書いて返し、つながりが継続できるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気作りの中で、縁あって7名で生活をしているので同じメンバーで何年も生活できるように温かい雰囲気を心掛けている。そのために皆で色々な行事などを取り組んでいる。孤立しそうな利用者には職員が関わり支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお茶を飲みに来たり、行事に来てくれる家族の方が来てお互いが話し合える関係は継続している。こちらから連絡するときがある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話をしたり「その人らしく」過ごせるように心掛けている。自分の意思が表現できない方には、ご家族の意向を確認して対応している。 契約時にはご家族からの意向も聞いて利用者の支援に役立てる。	利用者と日々関わる中で、どのように暮らしたいのか思いを聞いて、確認するよにしている。利用者の発した言葉は、ケース記録に記入して職員間で共有している。意思疎通が困難な利用者は、家族等から聞いたり、日々の行動や表情から汲み取り把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に聞き取りを行い生活歴を把握して職員にも周知徹底してもらいケアに当たっている。利用者本人を良く見て行動など気になる所があったら本人、家族に確認している。過去にはここが「家」だと認識してくれた利用者もいた。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握して、その中で本人らしく生活できるようなケアに努めている。それでいて居室に常に一人でいて孤立しないような配慮をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には本人・家族の希望を反映できるような計画にしている。面会時などに家族からも要望や気付いたことなど、その意見を大事にしてケアに当たっている。それが実践に移していけるような努力を続けたい。	入居時に利用者、家族等から意見、要望を聞いて、その人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。毎月、職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、3か月で見直しをしている。状態に変化が生じた場合は、関係者の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を記入して、それを個々の介護計画にも反映したり、処遇会議での意見交換の材料をしている。職員間で気付いたことや統一事項は申し送りノートに記入してケアに活かせるようにしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身内で不幸や祝い事があった場合など、職員が付き添い一緒に参加したりしてサービスのイメージを決めつけないような配慮を行っている。勤めていたおにぎりに職員付き添いで訪問したり入所前に行っていた美容院に行くなどしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと連携を取ったり、地域住民との関わりで地域に溶け込みながら快適かつ安心・安全な生活が送れるように努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人内にクリニックがある旨を伝え、そこに病院を移しても構わない利用者は紹介状をもらい健康管理のフォローを行っている。 病院を変わずそのままの方も当然おり家族との連携の中で受診等を行い健康管理を行っている。	利用者、家族が希望する、かかりつけ医として、協力医で法人内のクリニックを月2回、職員同行で定期受診している。薬の変更や受診結果は、家族等に連絡し情報の共有をしている。定期受診以外に個人契約して、訪問診療に来てもらう利用者もいる。また、看護師が職員として配置され、利用者の健康管理を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が特変時などはリーダー→管理者に伝わり、その中で家族と相談して受診や対応を決めるようにしている。また法人内の看護師とも連携してケアしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は病院との連携を密に行い、退院の許可がおりた時にはカンファレンスを行い速やかに対応できるようにしている。また入院中にADL低下することもあるので、介護計画も変更しながら医師・看護師ばかりではなくリハビリの職員からも情報を聞き対応している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院前に当然家族に伝えると同時に当法人にあるクリニックや特別養護老人ホームなどへの入所可能な旨は説明し広い選択肢の中で方向性を決めるようにしている。	入居時に重度化や終末期について、事業所での対応について説明している。食事の低下等、事業所での対応が困難になり重度化した場合については、医師の指示や判断を聞いている。状況に変化が生じた場合は早期から家族等と話し合いの機会をもち、事業所が対応できる支援方法を踏まえて、家族に意思の確認を取りながら方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低年に1回は内部で救急法の勉強会を行い職員の技術の向上をしている。それ以外にも外部の研修で学ぶようにしている。 いざという時に落ち着いて対応するように話もするようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成している。 年に数回避難訓練を行い利用者はもちろん職員の訓練をしている。通報訓練も行うようにしている。	年間を通して、日中や夜間を想定して、地震・火災に対する避難誘導訓練を利用者と一緒に行っている。災害対策マニュアルもあり、職員は利用者の状態を踏まえて、避難誘導できる方法を身につけている。訓練後は職員で話し合い、課題について検討している。運営推進会議でも、災害時に地域の協力を依頼している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳」をモットーに一人ひとりを大切にして利用者のケアをしている。言葉遣いに気をつけて甲州弁乱用は止めて敬語と甲州弁を組み合わせた声掛けを実践している。	利用者の気持ちを大切にして、トイレ誘導の声かけや居室に入る時は、プライバシーを損ねないよう対応に配慮している。呼称については、苗字としているが利用者によっては、反応の良い名前前で呼んでいる。個人情報の書類等は事務所で管理し、ボードに利用者のバイタル等を書いた時は、裏返しにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	めだかの学校シニア	決められた日課だけでなく、利用者の顔色を見たケアを行い、利用者の「今」を大切にしたい働きかけを行っている。また衣服にしても利用者の思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	めだかの学校シニア	決められた日課だけでなく、利用者の顔色を見たケアを行い、利用者の「今」を大切にしたい働きかけを行っている。「生活の場」を意識した支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	めだかの学校シニア	女性の利用者だと家族が持ってきてくれた化粧品や衣服でオシャレな身だしなみを行っている。男性の場合は整髪・髭剃り支援を行い身だしなみに気を配るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	めだかの学校シニア	それぞれの役割を大切に一回の食事で多くの利用者が関わられるような工夫をしている。食事が楽しく、安全に利用者にとって生き甲斐になるよう工夫している。食が生きるための活力なので大切にしている。	職員が献立を作り、調理も担当している。週2回、夕食を自由メニューとして利用者と相談しながら決めている。食材は利用者も職員と一緒に買って、調理や盛り付け、片付け、お茶入れ等、利用者のできる関わりを持つようになっている。また、旬の食材等を取り入れた特別食や行事食は、楽しみなものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	めだかの学校シニア	一人ひとりの状態や症状に合わせて食事やおやつを提供をしている。栄養摂取が十分でない利用者の方には高カロリーな捕食を心がけて対応している。また場面に応じて水分チェック表を付けて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	めだかの学校シニア	毎食後必ず口腔ケアを行っている。車椅子の方でも洗面所等を使い口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	めだかの学校シニア	トイレの間隔や回数、量も人によって違うので状態を把握して時間や状態を見て誘導してオムツではなくトイレで排泄ができるよう支援している。今現在9名全員がトイレでの排泄が出来る。	排泄チェック表を使用し、時間や様子を察知してトイレで排泄できるよう支援している。全員立位は可能で、日中・夜間共オムツ、リハビリパンツを使っている利用者はいない。時間を見計らって誘導することで、尿取りパットの使用をなくしたり、パットの大きさを替えて自立につながるよう、見直しについても話し合いを行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	めだかの学校シニア	薬での対応もしているが、極力自然排泄が出来るように運動や牛乳を飲んだりの工夫をしている。またそれを記録に残し連続性のケアになるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	めだかの学校シニア	入浴は利用者にとって大切なのでその日の体調を見ながらだが束縛なく入浴が出来るようにしている。時間等も本人のニーズに出来る限り答えられるようにしている。	毎日、午前・午後共に入浴準備が出来ている。利用者のその日の希望に合わせて、入浴できるよう一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。基本的には週3~4回入浴できる体制をとっている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名: **めだかの学校シニア**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、利用者の方がぐっすり休まれるように対応している。人によっては日中に少し仮眠を取る利用者もいる。ぐっすり眠れるように日中の過ごし方や、電気・温度などにも配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては危険なので用途などをケース記録の後ろに添付して皆で理解して行っている。またケアノートと言う医務の申し送りノートを作り皆で情報共有して取り組んでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生活ができるよう支援している。 一人ひとりの出来ることを大事にして残存機能を生かしながら取り組んでいる。草取りや料理、ピアノ・絵画、日記など。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出や全員で外に出かけたりなどの外的刺激を大事にしている。立地上、外に出やすい環境なので有効活用している。 外的刺激を意識した支援を行うようにしている。	コロナ禍で外出は、自粛している。日常的にはベランダに出て、職員と一緒に洗濯物を干す手伝いをするなど、短時間でも戸外に出る機会を作り気分転換になっている。また、法人のクリニックに定期受診の際は、車で移動するので外出にもつながっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に支払ったりとお金を持つ楽しみ、使う喜びを大事に出来るようにしている。家族からの要望もあり数人の利用者はお金も所持している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話をしたり年賀状を書いて送るようにしている。 面会に多くの方が来てくれるのであまり今現在は必要性はないが。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場を意識して家庭的な雰囲気になるようにしている。 利用者が書いた作品などを掲示して雰囲気作りをしている。 利用者が混乱しないように寄り添った支援を心掛けている。	3階部分が事業所になっていて、利用者が日中過ごしている共用の場所は、ワンフロアで対面式キッチンとダイニングテーブルが置かれている。調理する音やにおい、作業をしている様子が身近に感じられ、家庭的な雰囲気になっている。壁には、利用者が書いた習字、手芸の作品、行事の写真が飾られ、限られたスペースの中で、住み慣れた家で過ごすような環境を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過去には自分の居室に他の利用者呼び話をしている利用者もいた。玄関前にソファを置いたりして限られた中ではあるが「空間」作りをしている。場の提供を出来る限り心掛けている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室は利用者本人、家族が自由に使い、家庭的な雰囲気が出来ている。男性の利用者やキーパーソンが男性の場合は殺風景な居室もあるが家庭らしく工夫している。	居室には、ベット・照明器具・カーテン・エアコン・吊戸棚が備え付けになっている。冷蔵庫やテレビ、仏壇、整理ダンス等馴染みのあるものを持ち込み、家族と一緒に配置して、その人らしく過ごせるような部屋作りがされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ワンフロアの環境なので生活しやすくなっている。段差や危ないと思ったところは極力改善して対応している。利用者が安心・安全に生活できるように常に考えている。			